

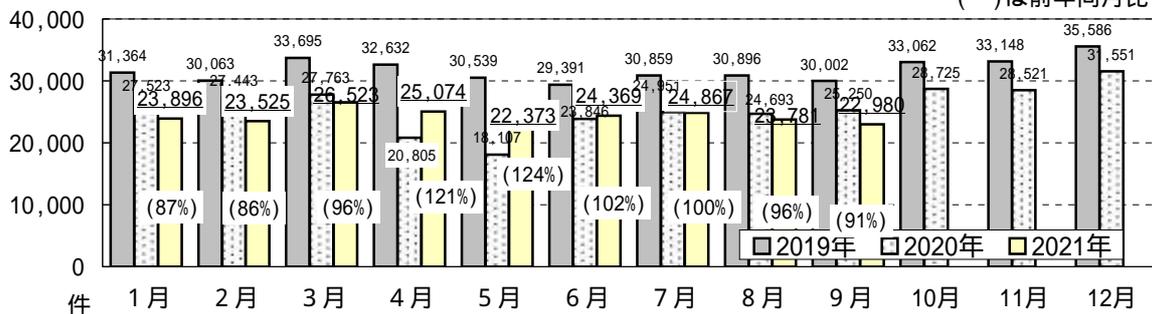
我が国の省庁等、政府系機関からは日々多種多様な情報が発信されます。(株)現代文化研究所はその中から広くモビリティに関する注目情報を所定期間にわたりピックアップ、テーマを設定した上で、その切り口から関連情報を整理し、お伝えします。

交通事故発生状況-2021年9月

<概要>

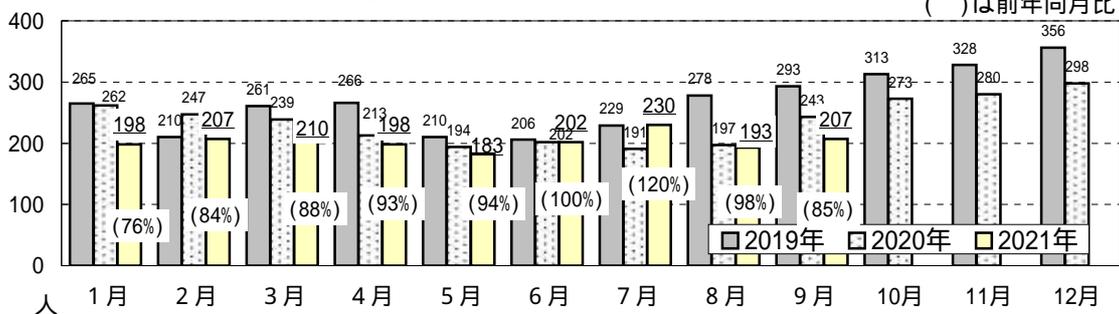
- ・交通事故発生件数は、前年同月との比較では、3月までの減少傾向から4～6月は増加に転じたが、7月は前年とほぼ同水準、8月、9月は減少傾向となっている(図表1)。
- ・交通事故死者数の前年比は、5月までの減少傾向から6月は昨年と同数になり、7月は39人増の120%となったが、8月はやや減少し、9月は前年比85%になった。(図表2)
- ・2019年比での週単位での移動人口減少幅は、4月以降、前年を下回る傾向となっていたが、9月は第4週まで前年より移動人口が抑えられた(図表3)。

図表1. 2019～2021年の月別交通事故発生件数



出典：警察庁「交通事故統計」

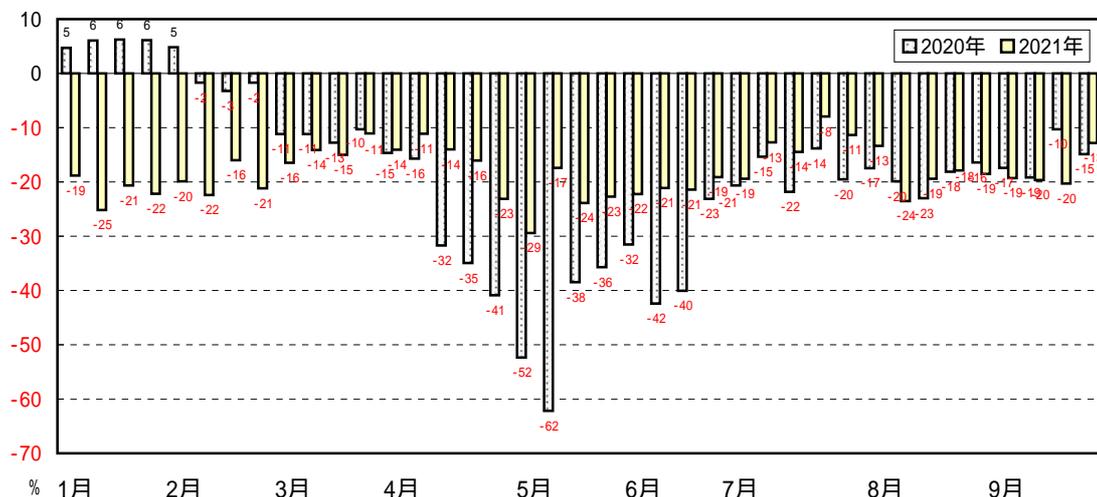
図表2. 2019～2021年の月別交通事故死者数



出典：警察庁「交通事故統計」

図表3. 全国の移動人口の動向 (2019年同週比 [%])

備考：9月第5週まで



補足表 : 各都道府県の人口10万人あたりの交通事故発生件数(2021年1～9月累計)

人口10万人あたりの交通事故発生件数が多い順

1位	静岡	383.8 件
2位	群馬	363.9 件
3位	佐賀	310.1 件
4位	宮崎	301.3 件
5位	福岡	281.0 件
6位	香川	250.7 件
7位	愛知	227.8 件
8位	兵庫	224.8 件
9位	山形	212.3 件
10位	徳島	207.7 件
11位	大阪	205.7 件
12位	山梨	183.8 件
13位	岡山	180.5 件
14位	神奈川	168.6 件
15位	長野	163.7 件
16位	鹿児島	162.6 件
17位	奈良	160.6 件
18位	埼玉	160.3 件
19位	千葉	152.8 件
20位	長崎	151.2 件

21位	茨城	147.0 件
22位	栃木	143.0 件
23位	大分	142.0 件
24位	滋賀	141.7 件
25位	東京	139.7 件
26位	青森	136.6 件
27位	沖縄	132.5 件
28位	富山	131.5 件
29位	熊本	130.8 件
30位	山口	130.6 件
31位	宮城	127.9 件
32位	愛媛	120.5 件
33位	石川	116.8 件
34位	広島	116.2 件
35位	福島	114.8 件
36位	北海道	113.6 件
37位	三重	111.7 件
38位	京都	108.0 件
39位	高知	107.7 件
40位	岐阜	106.4 件

40位	和歌山	106.4 件
42位	秋田	94.7 件
43位	新潟	89.7 件
44位	岩手	87.7 件
45位	福井	83.6 件
46位	島根	81.9 件
47位	鳥取	78.1 件

全国平均	172.3 件
------	---------

出典：警察庁「交通事故統計」

補足表 : 各都道府県の人口10万人あたりの交通事故死者数(2021年1～9月累計)

人口10万人あたりの交通事故死者数が多い順

1位	徳島	3.4 人
2位	高知	3.2 人
3位	香川	3.1 人
4位	山梨	2.8 人
5位	和歌山	2.7 人
6位	愛媛	2.4 人
6位	秋田	2.4 人
8位	栃木	2.2 人
8位	岐阜	2.2 人
8位	群馬	2.2 人
8位	鳥取	2.2 人
12位	鹿児島	2.1 人
12位	大分	2.1 人
12位	佐賀	2.1 人
12位	滋賀	2.1 人
16位	三重	2.0 人
16位	富山	2.0 人
16位	茨城	2.0 人
19位	岡山	1.9 人
20位	福井	1.8 人

20位	奈良	1.8 人
20位	福島	1.8 人
20位	広島	1.8 人
24位	静岡	1.7 人
25位	岩手	1.6 人
25位	山口	1.6 人
25位	宮崎	1.6 人
25位	北海道	1.6 人
25位	山形	1.6 人
30位	新潟	1.5 人
30位	福岡	1.5 人
30位	長野	1.5 人
33位	長崎	1.4 人
33位	宮城	1.4 人
33位	兵庫	1.4 人
33位	沖縄	1.4 人
33位	熊本	1.4 人
38位	千葉	1.3 人
38位	京都	1.3 人
40位	青森	1.2 人

40位	大阪	1.2 人
42位	埼玉	1.1 人
42位	石川	1.1 人
44位	神奈川	1.0 人
44位	島根	1.0 人
44位	愛知	1.0 人
47位	東京	0.7 人

全国平均	1.4 人
------	-------

出典：警察庁「交通事故統計」

〔トピック〕子どもの視野と交通事故

非常事態宣言による外出自粛やワクチン接種の効果等もあってか、コロナウイルスの感染者数は8月中下旬に比べてだいぶ減少してきた。第六波を危惧する声も少なくないが、このまま減少傾向が続き、一日でも早いコロナ禍の収束を誰もが望んでいることだろう。ただ、以前のような日常が戻ってくるにしたいが、人の移動が増える分、交通事故の増加も懸念される。

そこでアフターコロナを見据え、コロナ禍の前(2019年)に発生した事故の一例として、歩行者起因による交通事故について、各年齢層で最も多い「違反内容」を確認してみると、12歳以下は「飛び出し」、13～19歳は「横断違反」、20歳以上は「信号無視」となっている。(図表4)

いずれも事故のハッとする瞬間が容易に想像できるが、12歳以下の事故については、子ども特有の要因がある。

図表4. 年齢層別でみた歩行者起因の交通事故で最も多い違反内容 2019年

年齢層	事故の原因	発生率	年齢層	事故の原因	発生率
6歳以下	飛び出し	49%	40～49歳	信号無視	46%
7～12歳	飛び出し	49%	50～59歳	信号無視	47%
13～15歳	横断違反	42%	60～64歳	信号無視	44%
16～19歳	横断違反	37%	65～69歳	信号無視	40%
20～24歳	信号無視	52%	70～74歳	信号無視	49%
25～29歳	信号無視	37%	75～79歳	信号無視	45%
30～39歳	信号無視	40%	80歳以上	信号無視	50%

出典：公益財団法人 交通事故総合分析センター

子どもの視野

1960年代にスウェーデンの児童心理学者ステイナ・サンデルスが行った実験で、6歳くらいの子どもの平均的な視野は、左右(横)で90度程度、上下(縦)で70度程度という結果が確認されている。大人の平均的な視野は、左右で150度程度、上下で120度程度あるため、子どもの視野は上下左右ともに、大人の視野の6割程度と、思った以上に狭く、これが子どもの飛び出しや不注意等による交通事故の原因とされることも少なくない。小学校の朝礼や交通教室等で、先生や講師として来たお巡りさんが、道路を渡るときの注意として、首を大きく左右に振って確認する様子を“実演”をすることがあるが、これは生徒の気を引くためだけの大げさな演技ではなく、実際にそのくらいの確認をしないと子どもには見えないという意味もあるのだろう。ハンドルを握る側も、子どもが視野に入ったら「クルマが見えるだろう、気が付くだろう」とは思わずに、横断歩道やガードレールの隙間、四つ辻等から子どもは飛び出してくるという危険性を常に意識する必要がある。

子どもの右側から来るEVやHV等のエンジン音のしないクルマには気が付いていないことも...

